

- 問1 中国の歴史書『魏志倭人伝』に記録されている邪馬台国の女王卑弥呼は、当時の中国の王朝である魏に使いを送りました。卑弥呼がこのような外交を行った背景や、その結果として得た称号について述べた文として正しいものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 仏教を日本に広めるための援助を求め、皇帝から「倭王武」の称号を授かった。 | 2. 大陸の優れた青銅器技術を独占するため、皇帝から「遣隋使」として認められた。 | 3. 白村江の戦いでの協力を依頼するため、皇帝から「日本国王」の称号を授かった。 | 4. 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。 |
|---|--|--|--|
- 問2 中国の歴史書とそこに記された倭（日本）に関する記述の組み合わせについて、記述内容から判断して『魏志』倭人伝の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述 | 2. 倭人が100余りの国に分かれ、朝鮮半島の楽浪郡に定期的に使者を送っていたとする記述 | 3. 倭の奴国の王が後漢の皇帝から金印を授かり、のちに倭国全体で大きな乱れが起きたとする記述 | 4. 倭王が中国の皇帝に対し、自らを「日出づる処の天子」と称する国書を送ったとする記述 |
|---|--|--|---|
- 問3 弥生時代に大陸から稲作が伝来して定住生活が広まると、集落（ムラ）の間で大規模な争いが発生するようになりました。縄文時代の狩猟・採集中心の生活ではあまり見られなかったこのような対立が、弥生時代に激化した主な理由として適切なものはどれですか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--------------------------------------|
| 1. 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため | 2. 気候の寒冷化によって木の実などの食料が激減し、採集場所を奪い合ったため | 3. 獲物を追って移動する範囲を広げる中で、獲物の所有権をめぐる対立したため | 4. 大陸から伝来した仏教の布教をめぐる、信仰の違いから衝突が起きたため |
|--|--|--|--------------------------------------|
- 問4 1世紀頃の東アジアにおいて、中国の皇帝が周辺国の支配者に対して「みつぎ物」の見返りとして「称号」や「印」などを与える国際秩序がありました。倭の王が中国へ使いを送った歴史的背景や目的として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 朝鮮半島北部の小国として、中国の強力な武力による直接支配から逃れるための許可を求めた。 | 2. 仏教などの新しい宗教を中国から正式に導入し、国を治めるための思想として活用しようとした。 | 3. 中国と対等な立場で外交関係を築き、軍事的な同盟を結ぶことで領土を拡大しようとした。 | 4. 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。 |
|--|---|--|---|
- 問5 3世紀頃の日本（倭）の様子について記された中国の歴史書『魏志』倭人伝には、「長年、国々が争い合って混乱していたため、人々は一人の女子を王に立てた」という趣旨の記述があります。このとき、邪馬台国の女王として擁立された人物は誰ですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|---------|-------|
| 1. 持統天皇 | 2. 卑弥呼 | 3. 推古天皇 | 4. 壺与 |
|---------|--------|---------|-------|
- 問6 1世紀半ば、弥生時代の日本（倭）にあった奴国の王が、中国の後漢の皇帝から金印を授けられた頃の世界の動向として正しいものはどれですか。 (2019年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|--|--|
| 1. 南アジアのインダス川流域でインダス文明が栄え、大きな都市が建設された。 | 2. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始し、急速に勢力を拡大した。 | 3. ローマ帝国が地中海周辺を統一し、パレスチナでイエスがキリスト教を創始した。 | 4. ヨーロッパでルターが宗教改革を始め、カトリック教会に対してプロテスタントが成立した |
|--|---------------------------------------|--|--|
- 問7 佐賀県の吉野ヶ里遺跡のような「環濠集落」が弥生時代に多く見られるようになった背景として、当時の社会状況を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 大陸から馬や牛などの家畜が導入され、それらが逃げ出さないように囲いを作る必要があったため。 | 2. 狩猟や採集を中心とした生活から、山岳地帯に拠点を移して生活を守るため。 | 3. 稲作が始まり、余剰生産物や土地・水をめぐる集落間の争いが激しくなったため。 | 4. 大規模な祭祀を行う場所を確保するため、居住区と神聖な場所を区別する必要が生じたため。 |
|--|--|--|---|
- 問8 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--|---|--|
| 1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。 | 2. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。 | 3. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。 | 4. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する道具として使われた。 |
|---------------------------------------|--|---|--|
- 問9 歴史上の生産活動の発展において、農具の素材が変化したことは大きな意味を持ちます。鉄製の刃先を用いた農具への変化について説明したものとして、正しい記述を選んでください。 (2016年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--------------------------------------|---|
| 1. 鉄の刃先が導入された後も、土を耕す作業には一貫して木製のみの道具が使われた | 2. 鉄製の農具は重すぎて実用的ではなかったため、主に祭祀用の道具として使われた | 3. 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した | 4. 鉄は加工が困難であったため、刃先も含めてすべて石で代用する手法が普及した |
|--|--|--------------------------------------|---|
- 問10 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|---------|-------|
| 1. 埴輪 | 2. 青銅器 | 3. 磨製石器 | 4. 鉄器 |
|-------|--------|---------|-------|
- 問11 古代の日中関係をまとめた学習レポートにおいて、5世紀のヤマト王権による外交について記述する場合、その内容として正しいものはどれですか。 (2025年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 奴国の王が中国の後漢へ使節を派遣し、光武帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かって、北九州での地位を確立した。 | 2. 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指揮権や自らの地位を認めさせようとした。 | 3. 邪馬台国の卑弥呼が中国の魏に使節を派遣し、「親魏倭王」の称号とともに金印を授かり、国内の小国連合の統制を強めた。 | 4. 小野妹子が遣隋使として中国の隋へ派遣され、対等な立場での外交を求める国書を提出して、新しい官制や憲法を導入しようとした。 |
|---|--|---|---|
- 問12 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。 | 2. 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。 | 3. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。 | 4. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。 |
|---|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。	卑弥呼は、中国の王朝である魏に使者を送ることで、当時の先進国である中国の皇帝から自らの統治を認めてもらおうとしました。その結果、魏の皇帝から「親魏倭王（しんぎわおう）」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、その権威を背景に国内の統治を安定させようとしたと考えられています。
問2	答え 1 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	「魏志」倭人伝は、邪馬台国の政治体制や女王卑弥呼の死、そしてその後の大規模な埋葬儀礼について具体的に伝えています。他の選択肢について、100余りの国に分かれていたとするのは紀元前1世紀頃の「漢書」地理志、金印の授与や倭国の乱れ（倭国大乱）は1世紀から2世紀頃の様子を記した「後漢書」東夷伝、天子を自称したのは7世紀初頭の「隋書」倭国伝の記述です。
問3	答え 1 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため	稲作が始まると、安定して米を生産するために、日当たりの良い土地や灌漑に必要な水の確保が死活問題となりました。これらをめぐって集落間で利害が対立したことが、組織的な武力衝突へと発展しました。また、収穫した米を蓄積できるようになったことで、貧富の差や権力の差が生じたことも争いの一因です。
問4	答え 4 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。	当時の倭の王は、東アジアで圧倒的な権威を持っていた中国の皇帝に「朝貢」し、その臣下として認められる（冊封を受ける）ことで、自らの支配の正当性を強化しようとした。これは対等な外交ではなく、中国を中心とした主従関係に基づく国際秩序の中に組み込まれることを意味しています。
問5	答え 2 卑弥呼	弥生時代後期、倭（日本）では小国同士の激しい抗争が続いていました。この乱れを収めるために、約30の国々の連合体である邪馬台国の女王として立てられたのが卑弥呼です。彼女はまじないなどの宗教的な力を背景に政治を行い、混乱していた国内をまとめ上げました。
問6	答え 3 ローマ帝国が地中海周辺を統一し、パレスチナでイエスがキリスト教を創始した。	紀元57年に奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かった1世紀頃、西方ではローマ帝国が地中海を囲む広大な地域を支配していました。また、同じ1世紀にはパレスチナでイエスによってキリスト教が成立しており、日本の弥生時代の動きと世界の古代帝国の形成や宗教の成立は同時期の出来事です。インダス文明は紀元前、イスラム教は7世紀、宗教改革は16世紀の出来事であるため、時期が異なります。
問7	答え 3 稲作が始まり、余剰生産物や土地・水をめぐる集落間の争いが激しくなったため。	縄文時代から弥生時代にかけて、大陸から稲作が伝わったことで社会は大きく変化しました。米という貯蔵可能な余剰生産物が生まれたことで貧富の差が生じ、水田に欠かせない土地や水を奪い合う「戦争」が頻発するようになりました。吉野ヶ里遺跡に見られる濠や柵、物見やぐらといった設備は、こうした争いに備えた防御施設としての役割を持っていました。
問8	答え 1 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問9	答え 3 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した	古代の農具の改良に関する資料などでは、木製農具の先端部分を鉄で補強する記述が見られます。鉄は木材よりも硬く鋭いため、これを刃先として利用することで土地を効率よく耕し、生産性を高めることができました。こうした技術の進歩が、のちの国力の増大や社会構造の変化を支える基盤となりました。
問10	答え 2 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問11	答え 2 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指揮権や自らの地位を認めさせようとした。	5世紀のヤマト王権（倭）では、「讃・珍・済・興・武」の5人の王（倭の五王）が、中国の南朝に次々と使節を送りました。これは当時の中国の歴史書である『宋書』倭国伝に記されています。彼らは、朝鮮半島の百済や加羅（加耶）などに対する軍事的な指揮権や影響力を中国の皇帝に認めてもらうことで、国際的な地位を高めようとした。3世紀の卑弥呼は「魏」に、1世紀の奴国王は「後漢」に使節を送っており、時期と王朝の組み合わせを正しく把握することが重要です。
問12	答え 4 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。